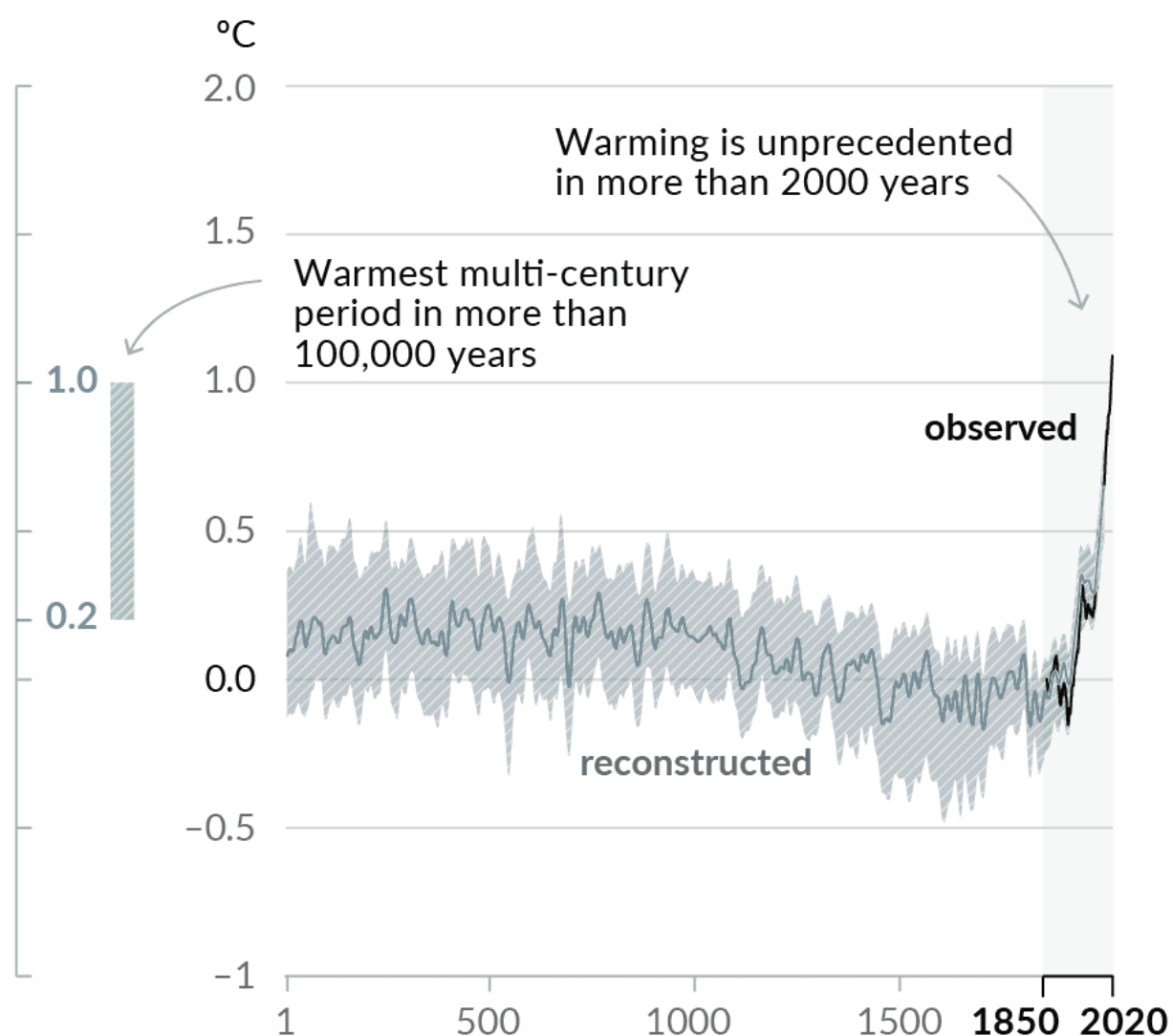


# 差し迫る気候危機と 国際社会の合意

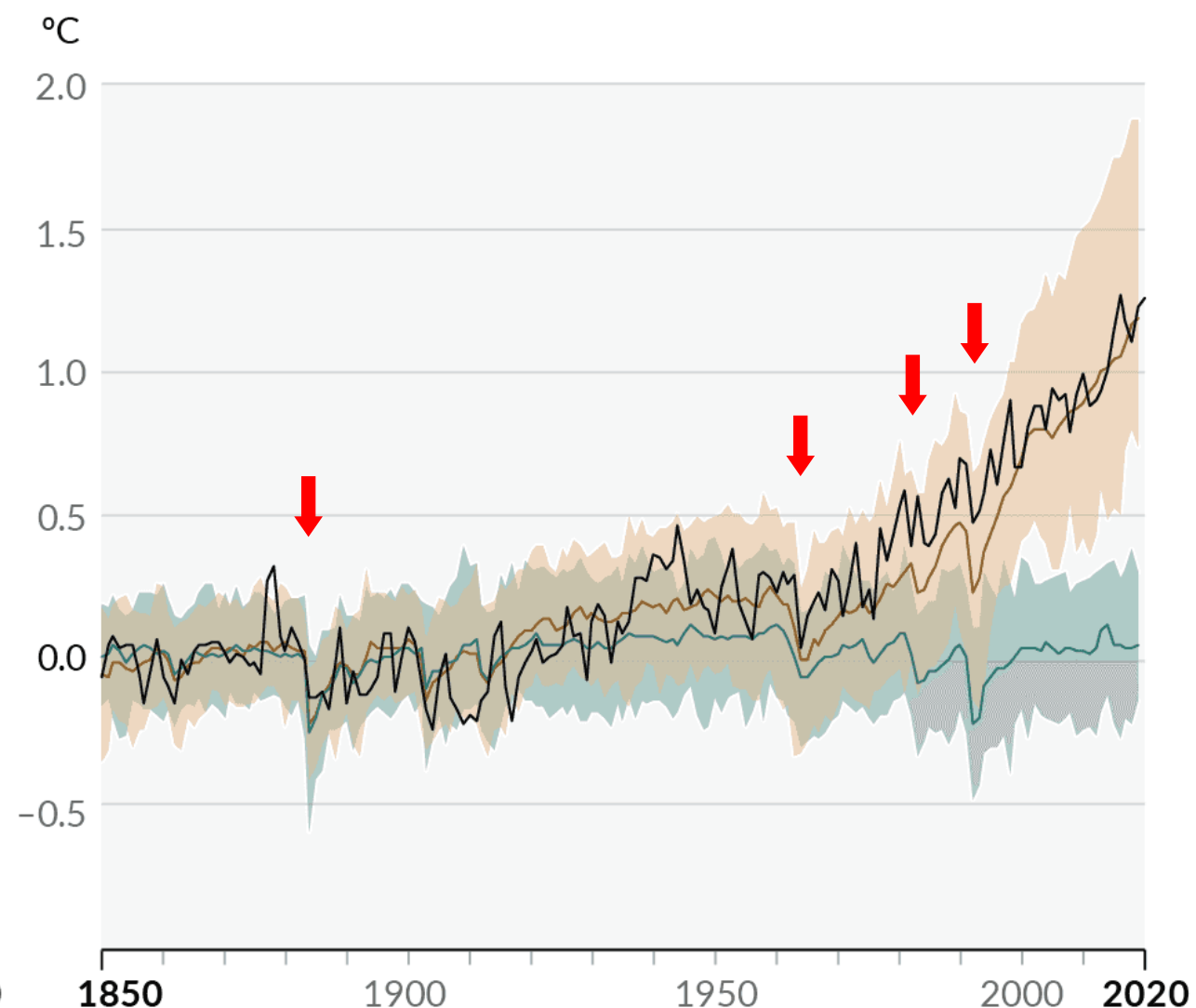
(カラー図)

(a)



Year

(b)



Year

図1 世界平均気温の長期変動

(a) 1850年～1900年を基準とした過去2000年間の変動, (b) 最近170年の変動の実測値（黒線）と、人為的温室効果ガスの影響を含む場合（茶色）と含まない場合（青色）のモデル計算の比較. 矢印は気候に影響を与えた火山噴火. （文献4に加筆）

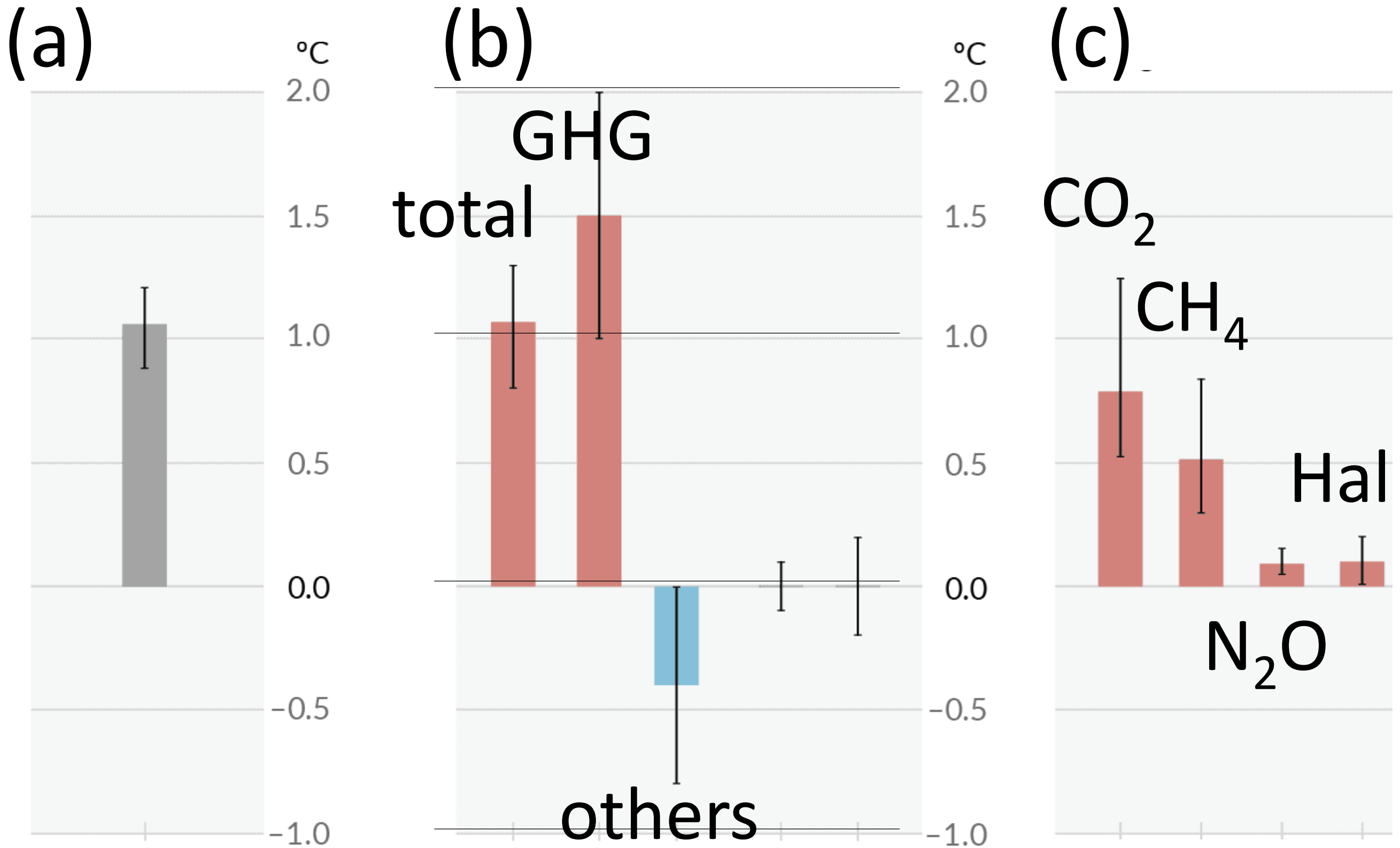


図2 地球温暖化への温室効果ガスの寄与

1850年～1900年基準として，2010年～2019年の世界平均気温の上昇．(b)世界平均気温の上昇に占める人為的温室効果ガス（GHG）と冷却効果ガスの影響，(c)温室効果ガスの寄与の内わけ．Halはフロンなどのハロゲン化物ガス．（文献4に加筆）

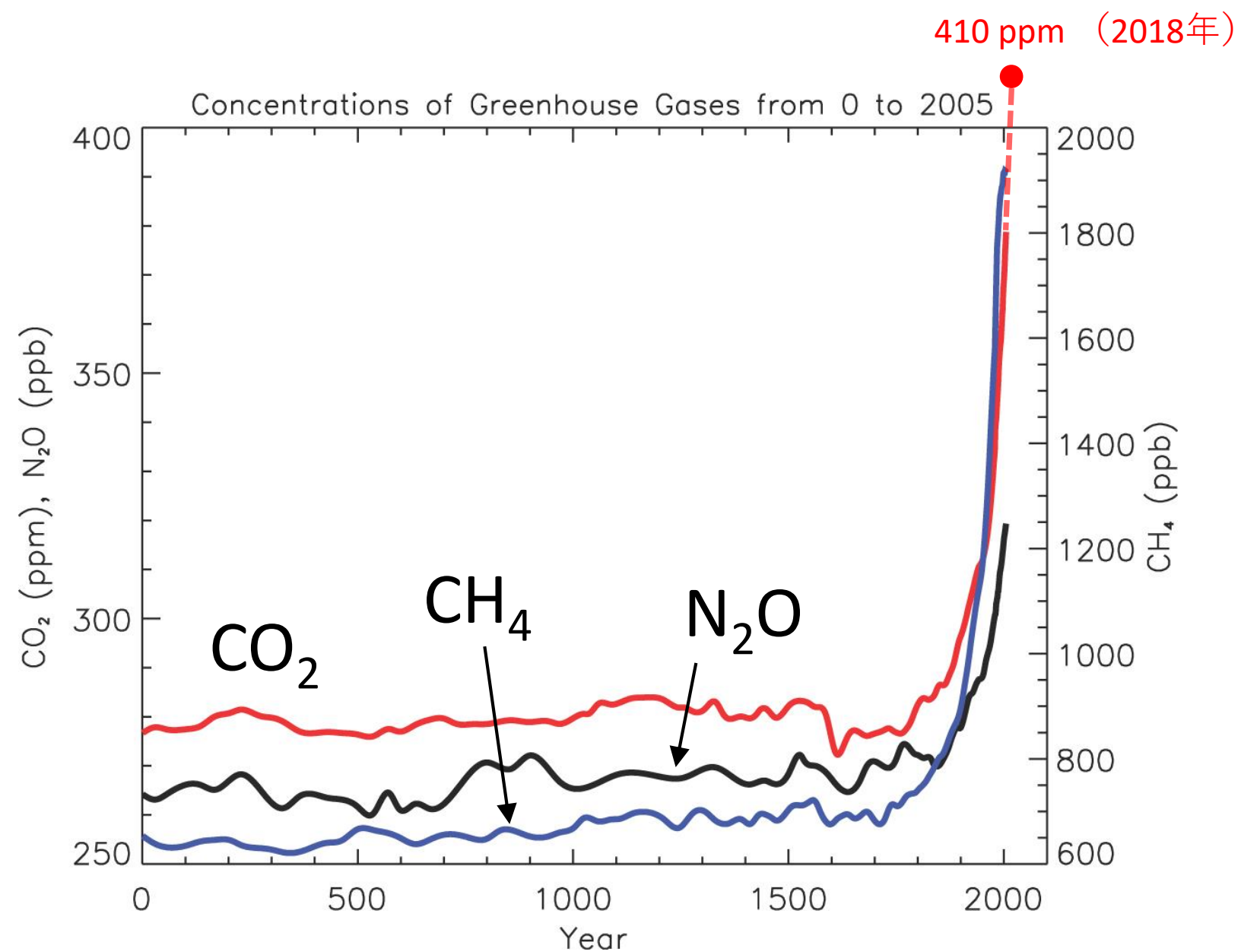
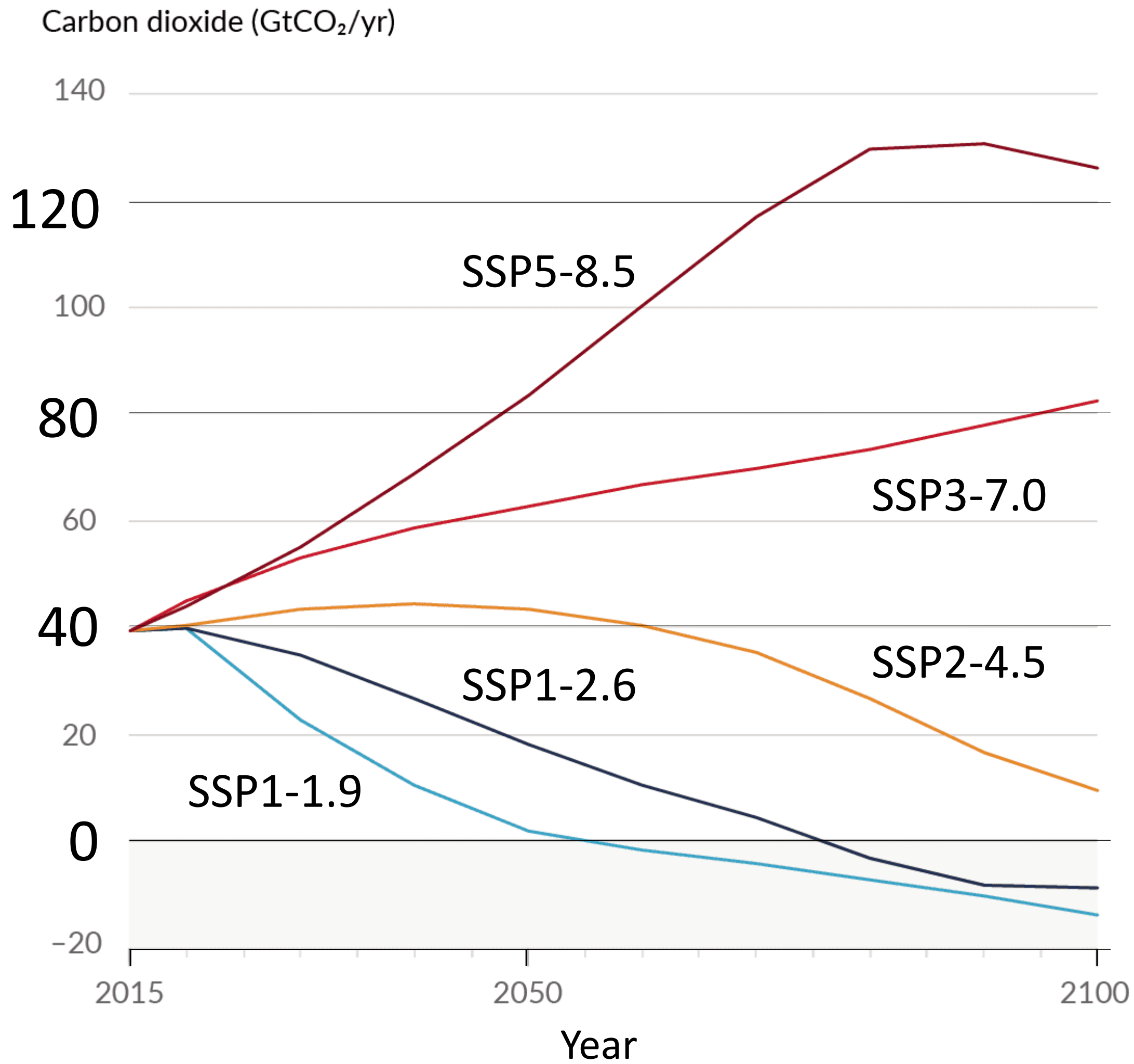


図3 対流圏における温室効果ガスの増大  
IPCC第4次評価報告 (AR4) に加筆.

(a)



(b)

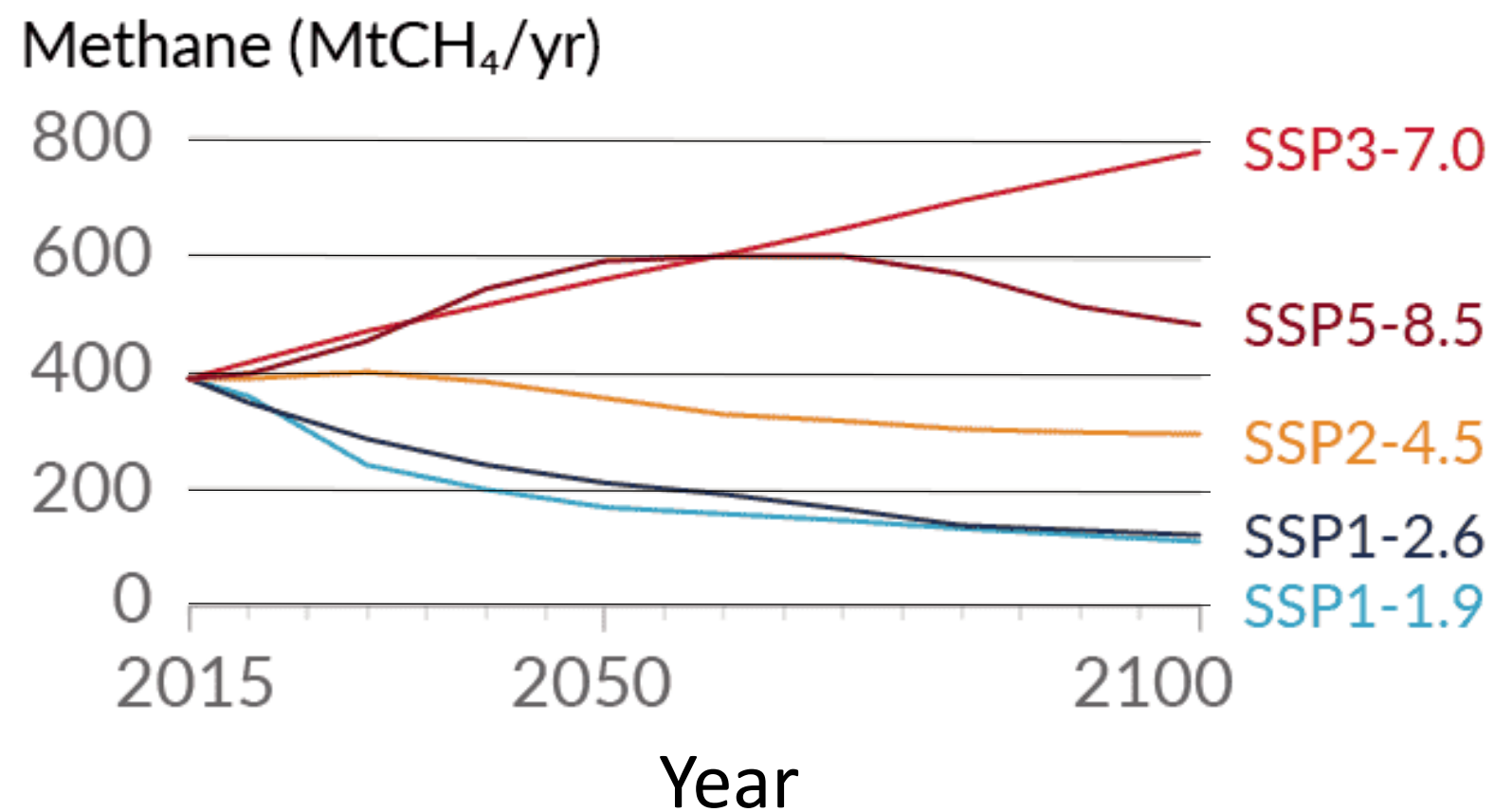
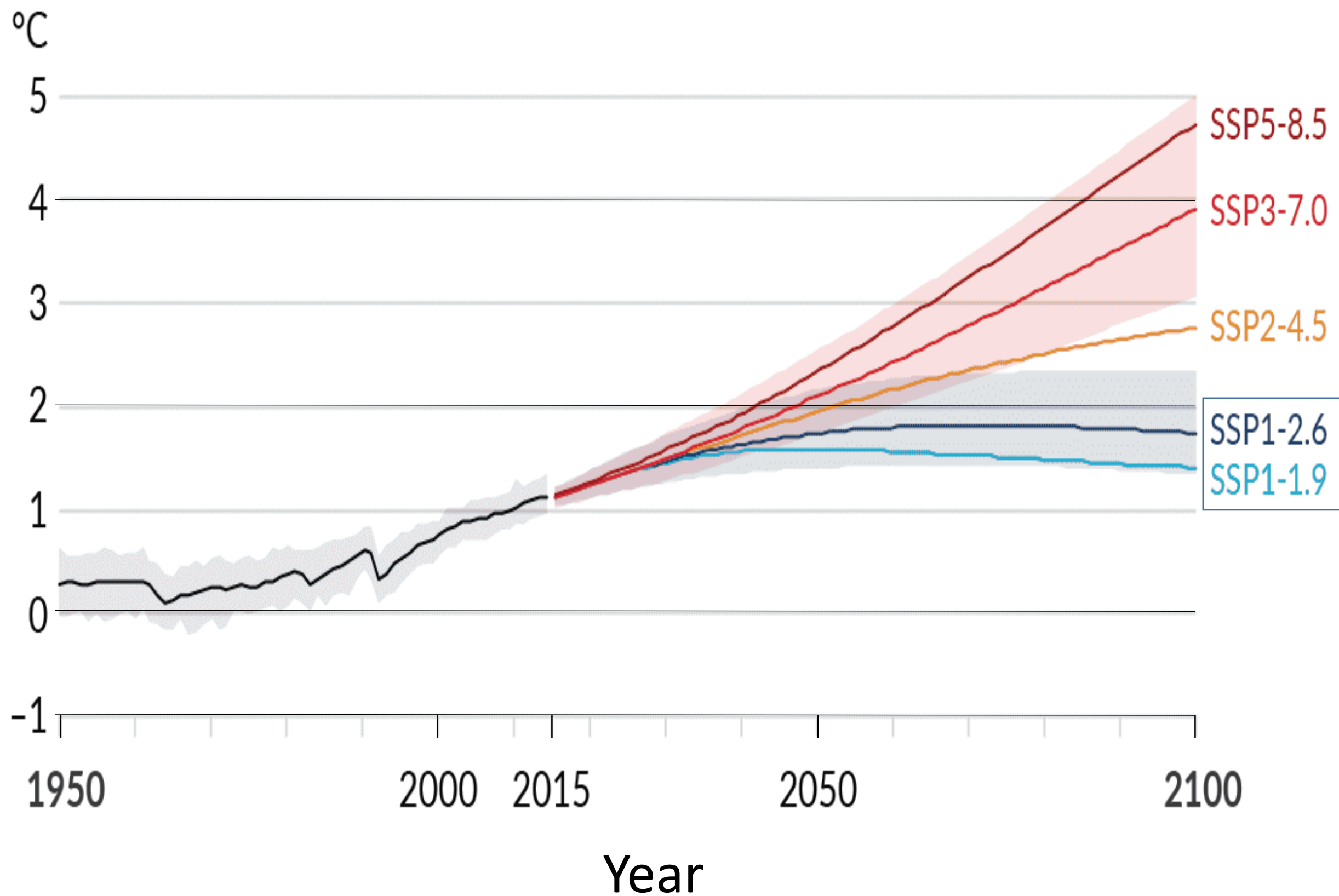


図4 21世紀中における温室効果ガスの年間排出量変化のシナリオ  
(a) 二酸化炭素, (b)メタン. (出典: 文献4)

図5 5つのシナリオに基づく21世紀中の世界平均気温の変動予測  
(出典：文献4)



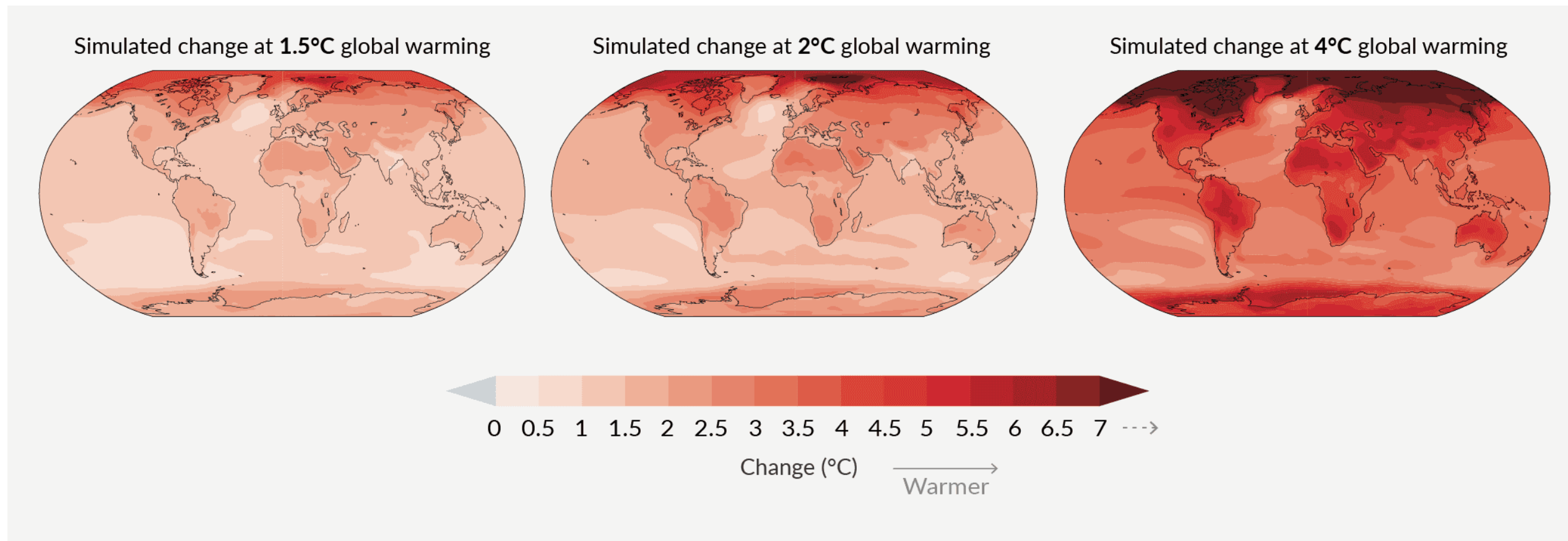


図6 世界平均気温が1.5°C, 2°C, 4°C上昇した場合に予測される地域ごとの気温変動  
(出典：文献4)

図7 5つのシナリオに基づき予測される陸域，海洋，大気圏  
における二酸化炭素炭素の1850年～2100年の蓄積量（出典：文献4）

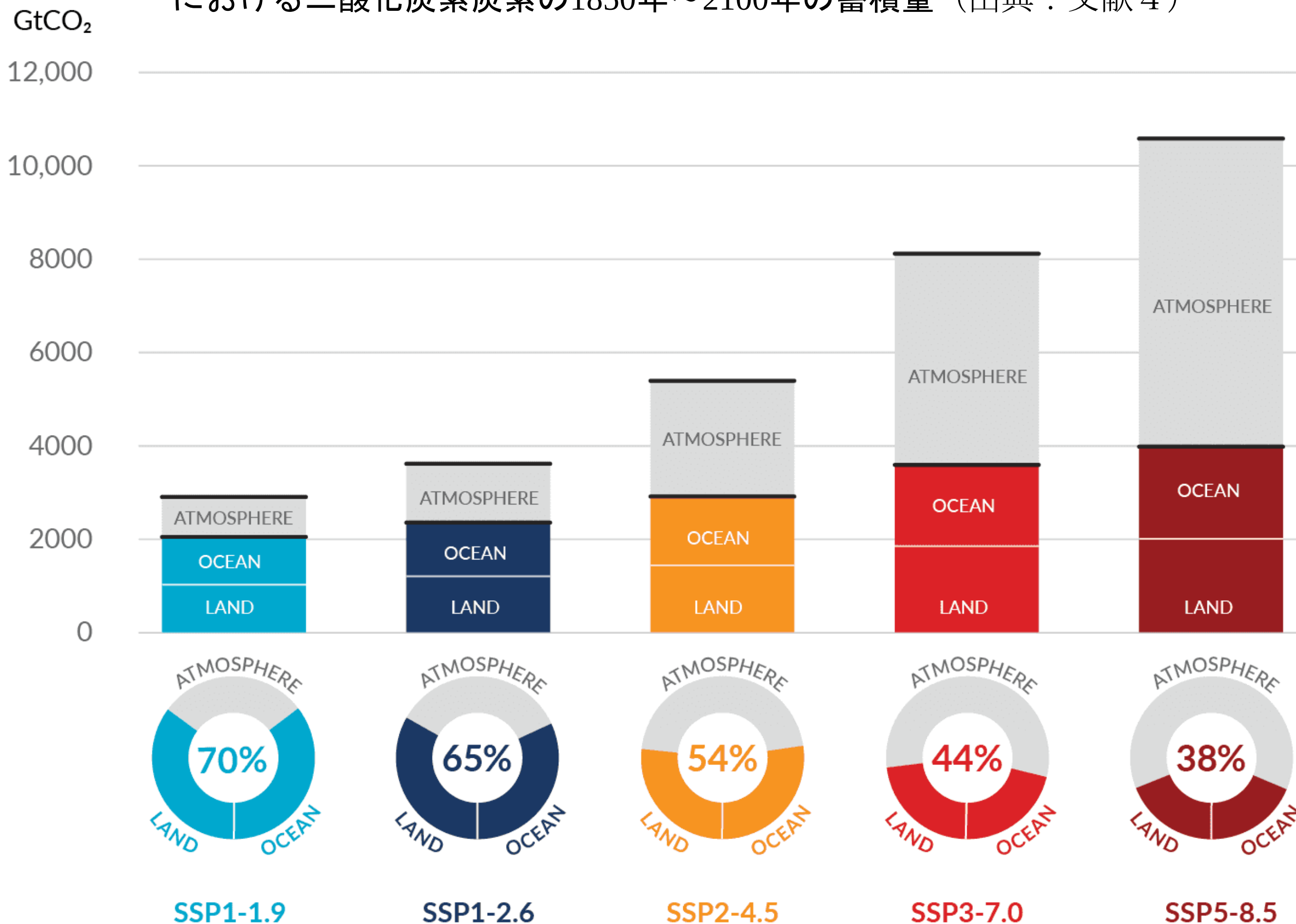
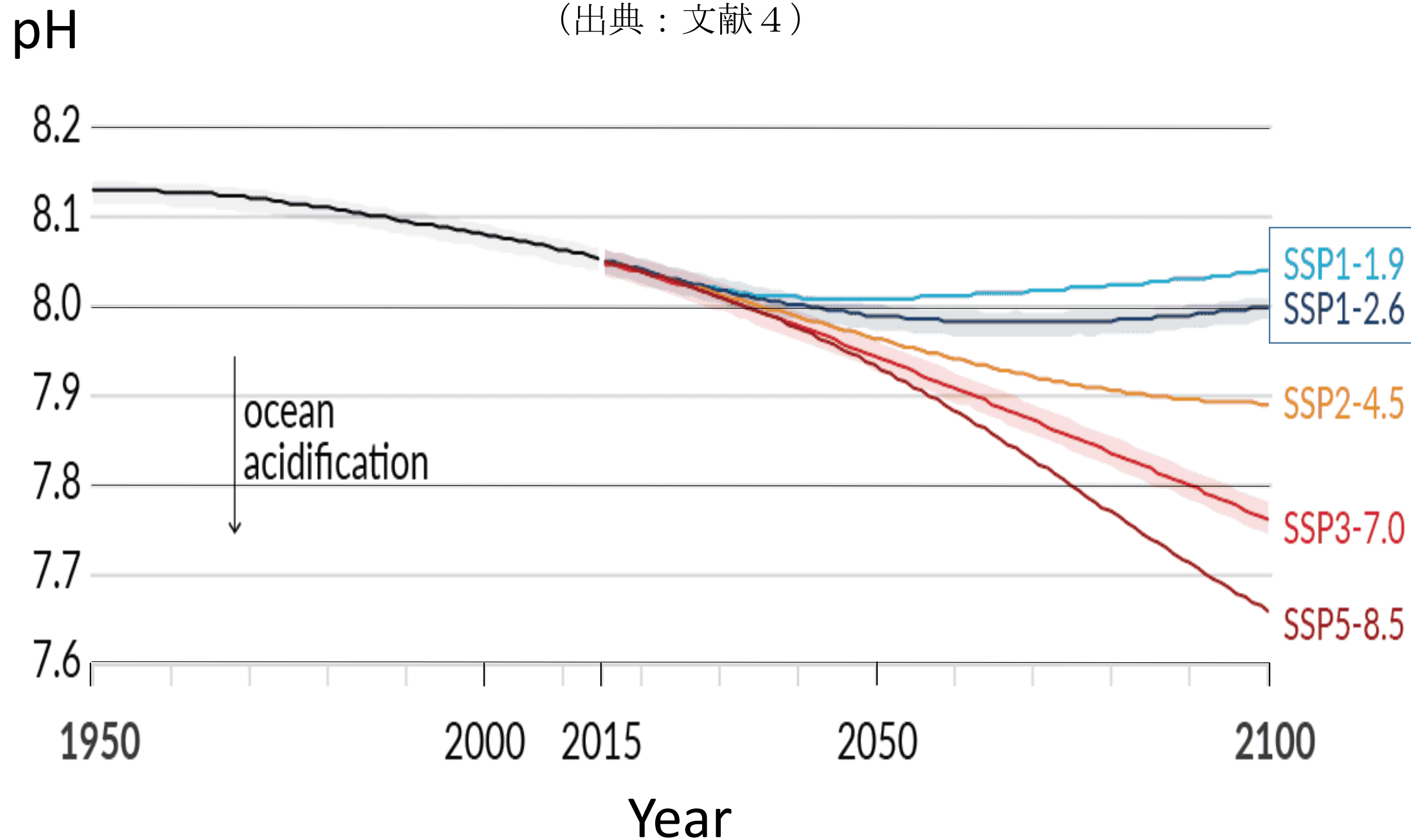


図8 5つのシナリオに基づく海洋の酸性化  
(出典：文献4)



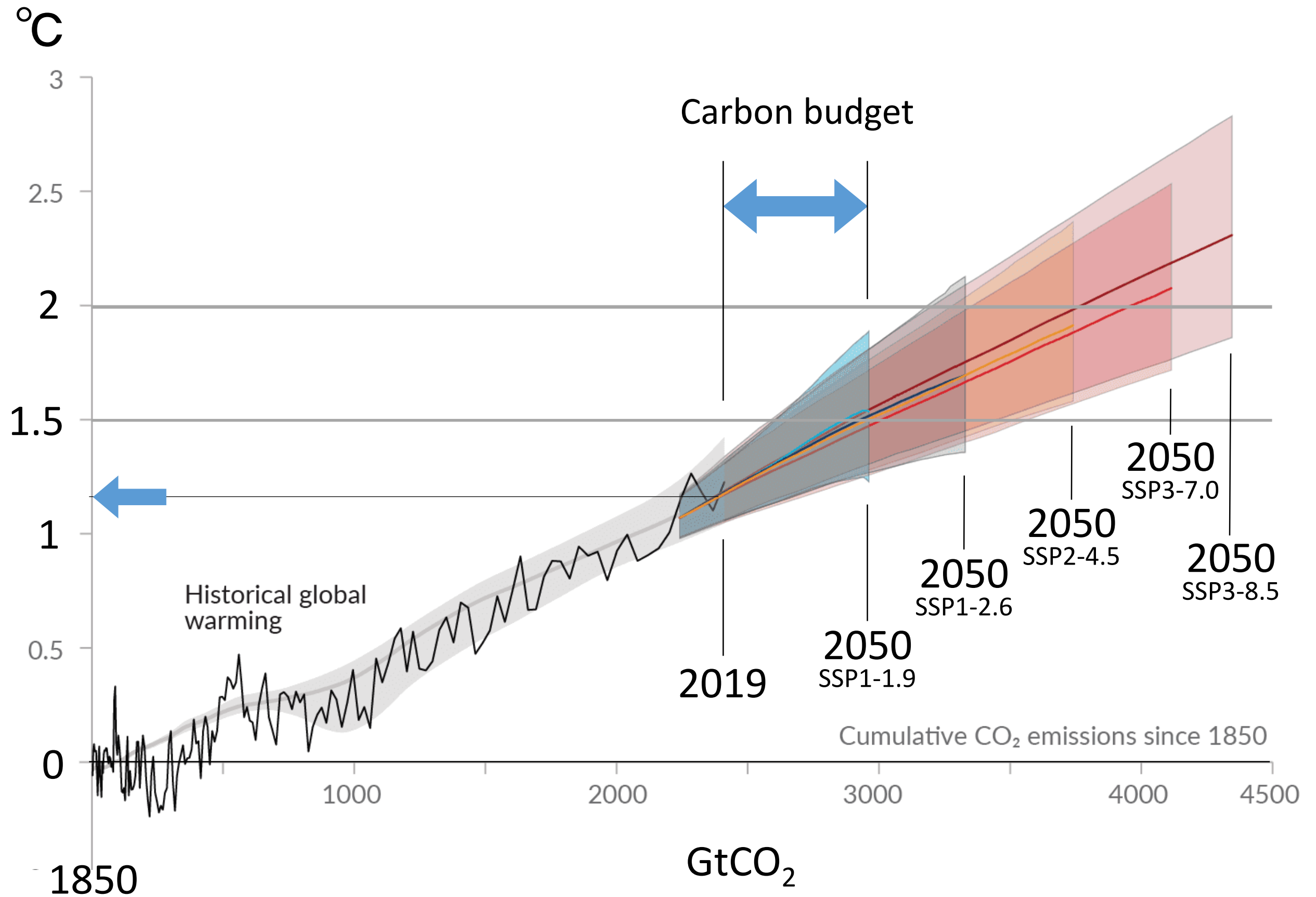


図9 1850年以降の世界平均気温と人為的二酸化炭素の蓄積量の関係  
(文献4に加筆)